

学校公共建築物等定期調査業務仕様書

1 目 的

本委託は、建築基準法第 12 条第 2 項等に基づき、川崎市立学校の建築物の定期点検及び学校設備の点検を行うものである。

2 履行場所 別添「点検実施校一覧」のとおり

3 履行期間 令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 2 月 6 日

4 業務内容

1 建築物定期点検

建築基準法第 12 条第 2 項等に基づき、学校内の建築物について別紙 1-1-1、別紙 1-1-2 に記載した調査項目等に沿って、一級建築士、二級建築士又は特定建築物調査員いずれかの資格を有する者により点検を行い、別紙 1-2-1 から別紙 1-2-4 及び別紙 1-3 の作成を行う。

2 学校設備等点検

ア) 非構造部材点検

学校内の非構造部材の点検を、別紙 2-1 に記載した調査項目に沿って行う。

イ) 遊具点検

※小学校の校庭の遊具を除く（小学校の校庭の砂場及びゴール類は点検対象とする。）

別紙 2-2 の統括表に記載した遊具のうち、各学校に設置されているものについて、該当する点検チェックシート（別紙 2-2-①から別紙 2-2-⑭まで）の項目に沿って点検を行う。また、必要に応じて、グリースオイルの注入及びボルト・ナットの増し締めを行うこと。

※遊具 学校敷地内における次のものを指す。

例) バasketゴール、サッカーゴール、鉄棒・雲梯。のぼり棒、ブランコ、滑り台、シーソー、ジャングルジム、砂場、ターザンロープ、スプリング・スウィング遊具、プレイスカルプチュア（コンクリート遊具）、その他これらに類するもの。

3 各点検の対象校及び対象建築物は別紙の一覧表のとおりとする。

5 業務着手

契約締結後、次の書類を各 1 部提出すること。

(1) 委託業務工程表

(2) 点検に関する資格を証明する書類

6 報告書等の作成・提出

(1) 点検の結果については、次のとおり作成し、指定の提出先へ提出すること。

	記入様式	作成部数	提出先	備考
建築物の 定期点検	別紙1-3(別添1・2含む) 別紙1-2-1から 別紙1-2-4	1部	発注者	点検対象校送付用
	別紙1-3(別添1・2含む) 別紙1-2-1から 別紙1-2-4	1部		メールにて
学校設備 の点検	別紙2-1 別紙2-2	1部		点検対象校送付用
	別紙2-1 別紙2-2	1部		メールにて
作業完了 報告書	別紙 3	各1部		各学校 1 部ずつ作成

※関係写真については、撮影場所、破損箇所等が分かるよう、必ず説明を付けること。

(2) 別紙 1 - 3、別紙 2 - 1 及び別紙 2 - 2 については、別途学校毎の要修繕箇所等を示した一覧表を作成すること（様式任意）。

(3) 本調査業務において知り得た事項は、許可なく使用、あるいは第三者に提供してはならない。

7 業務実施上の注意事項

(1) 調査員は、学校立ち入りの際に名札を付け、点検調査員であることを示す。

(2) 点検作業時の状況や設備の記録写真を撮影すること。撮影した記録写真は、求めに応じて提出できるように保存しておくこと。（履行終了後 6 年間）

(3) 学校との連絡調整は受託者にて行い、調査点検に当たっては学校運営に支障のないようにすること。

(4) 調査中に調査に関する問題が生じた場合には、発注者に速やかに連絡し指示を仰ぐこと。

(5) 本委託仕様書の内容に疑義が生じた場合は、発注者と協議すること。

点検実施校一覧

【別紙】

○…点検実施

N o	施設名称	建築物定期 点検	非構造部材 点検	遊具点検	備考
	令和7年度実施				
1	柿生小学校	○	○	○	
2	はるひ野小学校	○	○	○	
3	はるひ野中学校	○	○		

No	学校名	棟 番 号	枝 番 号	建物名称	構造区分	保有面 積	【参考】 延床面積 (建物ごと)
1	柿生小学校	23		管理・普通教室棟	鉄筋コンクリート造	4057	
		24	1	特別教室棟・プール専用付属室	鉄筋コンクリート造	2777	
		24	2	屋内運動場	鉄筋コンクリート造	210	
		25		屋内運動場	鉄筋コンクリート造	1005	
		29		普通教室棟	鉄筋コンクリート造	2582	
		30		渡り廊下	鉄骨その他造	155	
2	はるひ野小学校	1	1	特別教室棟	鉄筋コンクリート造	719	1725
		1	3	屋内運動場	鉄筋コンクリート造	712	
		1	6	地域・学校連携施設	鉄筋コンクリート造	205	
		1	7	特別教室棟・プール専用付属室	鉄筋コンクリート造	89	
		2	1	管理・特別教室棟	鉄筋コンクリート造	890	
		3	1	普通・特別教室棟	鉄筋コンクリート造	2631	
		4	1	管理・特別教室棟	鉄筋コンクリート造	1835	2336
		4	3	屋内運動場	鉄筋コンクリート造	501	
		5		管理・普通教室棟	鉄筋コンクリート造	4022	
		6		普通教室棟	鉄筋コンクリート造	778	
3	はるひ野中学校	1	2	特別教室棟	鉄筋コンクリート造	1066	2216
		1	4	屋内運動場	鉄筋コンクリート造	755	
		1	6	地域・学校連携施設	鉄筋コンクリート造	276	
		1	8	特別教室棟・プール専用付属室	鉄筋コンクリート造	119	
		2	2	管理・特別教室棟	鉄筋コンクリート造	2724	
		3	2	普通・特別教室棟	鉄筋コンクリート造	2420	
		4	2	管理・特別教室棟	鉄筋コンクリート造	1099	2019
		4	4	屋内運動場	鉄筋コンクリート造	534	
		4	5	格技室	鉄筋コンクリート造	386	

タイル、石貼り等（乾式工法によるものを除く）、 モルタル等の劣化及び損傷の状況の検査について

1 検査方法

(1) 原則

打診法によるものとする。開口隅部、水平打継部、斜壁部等のうち、手の届く範囲をテストハンマー等による打診により確認する（赤外線、高所作業車及び足場等は使用しない）。

(2) テストハンマーが届かない箇所の取扱（例外）

必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。目視で異常が認められた場合にあっては、高所作業車等を使用し、異常が認められた部分のうち落下により歩行者等に危害を加える恐れのある部分をテストハンマー等で打診する。

なお、高所作業車等を使用した打診法と比較して赤外線法を使用したほうがコスト面で有利である場合、または物理的に打診法が不可能な場所である場合は、教育委員会と協議のうえ赤外線法を使用することができるものとし、その基準については「2 赤外線法を使用する上での基準」を参照のこと。

2 赤外線法を使用する上での基準

(1) 建築物の日射状況の確認

建築物の日射状況や周囲の状況を把握し、赤外線カメラの配置計画を適正に行うこと。

(2) 赤外線カメラの選定

赤外線カメラは、以下に示す性能以上の機種を選定すること。ただし、調査建築物の状況等により同等以上の調査結果が得られる場合は、発注者と協議の上、これによらないことが出来る。

性能)

温度測定範囲 $-20^{\circ}\text{C} \sim 100^{\circ}\text{C}$

最小検知温度差 0.08°C

画像データ画素数 320 (H) × 240 (V) ドット (約7.6万画素)

(3) カメラの設定位置の計画

カメラの設定位置は調査対象壁面に対し出来るだけ直角の撮影に努め、仰角は45度以内を原則とすること。また、撮影距離は10～50m以内で解析に支障のない範囲を基本とするが、物理的に不可能な自由がある場合はこの限りではない。

以上

現地調査評価表(別紙1-2)記入要綱

番号	調査項目		調査方法	判定基準 現地調査評価表(別紙1-2)記入要綱
10	敷地及び地盤			
10010	塀	組積造の塀又は補強コンクリートブロック造の塀等の劣化及び損傷の状況	目視、下げ振り等により確認する	著しいひび割れ、破損又は傾斜が生じていること 該当する塀の有無 1:有り 5:無し 劣化状況 1:著しいひび割れ、破損・傾斜 5:問題なし
10020	擁壁	擁壁の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	著しい傾斜若しくはひび割れがあること又は目地部より土砂が流出していること 無記入:対象なし 1:かなり劣化している(倒れ・クラック・土砂流出) 3:一部劣化している(部分的なクラック等) 5:問題なし
10030	舗装の劣化	舗装の劣化	目視により確認する	1:かなり劣化している(亀裂・大きな起伏多数) 3:一部劣化している(部分的) 5:問題なし
10040	U字溝の劣化	U字溝の劣化	目視により確認する	1:かなり劣化している(U字溝の沈下・蓋の脱落・大きな段差など) 3:一部劣化している(部分的) 5:問題なし
10050	門扉の劣化	門扉の劣化	目視により確認する	1:かなり劣化している(倒れ・大きな破損・開閉困難など) 3:一部劣化している(部分的な破損・開閉に多少難あり) 5:問題なし
10060	フェンスの劣化	フェンスの劣化	目視により確認する	1:かなり劣化している(サビ破損多数・倒れなど) 3:一部劣化している(部分的) 5:問題なし
10070	フェンス基礎の劣化	フェンス基礎の劣化	目視により確認する	1:かなり劣化している(かけクラック多数・支柱のぐらつきなど) 3:一部劣化している(部分的なクラック等) 5:問題なし
10080	近隣への砂塵対策状況	近隣への砂塵対策状況	目視により確認する	1:無し 5:有り(防砂ネット)
10090	近隣への球の侵入対策状況	近隣への球の侵入対策状況	目視により確認する	1:無し 5:有り(防球ネット)
20	建築物の外部			
20010	基礎	基礎の劣化及び損傷の状況	目視により確認する	礎石にずれがあること又はコンクリート面に鉄筋露出若しくは著しいひび割れ、欠損等があること 1:要是正 5:指摘なし
20020	土台(木造に限る。)	土台の劣化及び損傷の状況	目視及び手の届く範囲をテストハンマーによる打診等により確認する	木材に著しい腐朽、損傷若しくは虫害があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし
20030	外壁	躯体等	木造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する 木材に著しい腐朽、損傷若しくは虫害があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20040			組積造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する れんが、石等に割れ、ずれ等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20050			補強コンクリートブロック造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する 目地モルタルに著しい欠落があること又はブロック積みに変位等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20060			鉄骨造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する 鋼材に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する

現地調査評価表(別紙1-2)記入要綱

番号	調査項目		調査方法	判定基準 現地調査評価表(別紙1ー2)記入要綱	
20070	外壁	躯体等	鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	
20080		タイル、石貼り等(乾式工法によるものを除く。)、モルタル等の劣化及び損傷の状況	開口隅部、水平打継部、斜壁部等のうち手の届く範囲をテストハンマーによる打診等により確認し、その他の部分は必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し、異常が認められた場合にあっては、落下により歩行者等に危害を加えるおそれのある部分を全面的にテストハンマーによる打診等により確認する。 ただし、竣工後、外壁改修後若しくは落下により歩行者等に危害を加えるおそれのある部分の全面的なテストハンマーによる打診等を実施した後10年を超え、かつ3年以内に落下により歩行者等に危害を加えるおそれのある部分の全面的なテストハンマーによる打診等を実施していない場合にあっては、落下により歩行者等に危害を加えるおそれのある部分を全面的にテストハンマーによる打診等により確認する。 (3年以内に外壁改修等が行われることが確実である場合又は別途歩者等の安全を確保するための対策を講じている場合を除く)	コンクリート面に鉄筋露出又は著しい白華、ひび割れ、欠損等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する	
20090		外装仕上げ材等	乾式工法によるタイル、石貼り等の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	ひび割れ、欠損等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20100		金属系パネル(帳壁を含む。)	劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	パネル面又は取合い部が著しい錆等により変形していること 無記入:対象なし 1:かなり有る 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20110		コンクリート系パネル(帳壁を含む。)	劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	錆汁を伴ったひび割れ、欠損等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20120		塗装の浮き・剥離		必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(段差・はがれ多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20130	窓サッシ等	窓サッシ等の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又は開閉により確認する	サッシ等の腐食又はネジ等の緩みにより変形していること 無記入:対象なし 1:かなり有る(作動が困難・漏水のおそれ有り、腐食、変形) 3:一部有る(作動に多少難有り) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する	
20140	外部金物	鉄部のさび(鉄骨外部階段等)	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する	
20150	外壁	外壁に緊結された広告板、空調室外機等	機器本体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	機器本体に著しい錆又は腐食があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし

現地調査評価表(別紙1-2)記入要綱

番号	調査項目		調査方法	判定基準 現地調査評価表(別紙1ー2)記入要綱	
20160		外壁に緊結された広告板、空調室外機等	支持部分等の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又は手の届く範囲をテストハンマーによる打診等により確認する	支持部分に緊結不良があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし
20170		躯体等	軒天井等部分のクラック	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20180	外壁 (軒天井)	外装仕上げ材等	軒天井等部分のコンクリートモルタルの浮き・欠損	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る・落下時危険位置に有る 3:一部有る(部分的)・落下時危険位置に無 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20190			軒天井等部分の塗装の浮き・剥離	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(段差・はがれ多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
20200			軒天井等部分の漏水跡	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※外壁の各方位(東・西・南・北)について評価し、平均点を算定する
30	屋上及び屋根				
30010	屋上面	屋上面の劣化及び損傷の状況	目視により確認する	歩行上危険なひび割れ若しくは反りがあること又は伸縮目地材が欠落し植物が繁茂していること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし	
30020		防水層の老朽化状況	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり劣化している(亀裂・膨れ・浸水など) 3:一部劣化している(部分的) 5:問題なし	
30030	屋上周り(屋上面を除く。)	パラベットの立上り面の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する	モルタル等の仕上材に著しい白華、ひび割れ等があること又はパネルが破損していること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし	
30040		笠木モルタル等の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する	モルタル面に著しいひび割れ、欠損等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし	
30050		金属笠木の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する	笠木に著しい錆若しくは腐食があること又は笠木接合部に緩みがあり部分的に変形していること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし	
30060		排水溝(ドレーンを含む。)の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する	排水溝のモルタルに著しいひび割れ、浮き等があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし	
30070		排水溝・ドレーンのつまりの状況	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし	
30080	屋上周り(屋上面を除く。)	ハト小屋の老朽化状況	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり劣化している(全体) 3:一部劣化している(部分的) 5:問題なし	
30090	屋根	屋根の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又はテストハンマーによる打診等により確認する	屋根ふき材に割れがあること又は緊結金物に著しい腐食等があること 無記入:対象なし 1:全体 3:一部(部分的) 5:問題なし	

現地調査評価表(別紙1-2)記入要綱

番号	調査項目			調査方法	判定基準 現地調査評価表(別紙1ー2)記入要綱
30100	機器及び工作物 (冷却塔設備、広告塔等)		機器、工作物本体及び接合部の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する	機器若しくは工作物本体又はこれらと屋上及び屋根との接合部に著しい錆、腐食等があること (高架水槽、アンテナ、空調室外機等) 無記入:対象なし 1:かなり劣化している(使用上の支障有り) 3:一部劣化している(使用上の支障はない) 5:問題なし
30110			支持部分等の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する	支持部分に緊結不良若しくは緊結金物に著しい腐食等又はコンクリート基礎等に著しいひび割れ、欠損等があること (高架水槽、アンテナ、空調室外機等) 無記入:対象なし 1:かなり劣化している(使用上の支障有り) 3:一部劣化している(使用上の支障はない) 5:問題なし
30120	屋上金物の劣化		配管ラッキングのサビ	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし
30130			手摺の老朽状況	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり劣化している(安全上の支障有り) 3:一部劣化している(安全上の支障はない) 5:問題なし
30140			EXP・J金物の老朽化状況	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり劣化している(安全上の支障有り) 3:一部劣化している(安全上の支障はない) 5:問題なし
30150			トブライトの老朽化状況	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり劣化している(漏水、落下のおそれ有り) 3:一部劣化している(使用上の支障はない) 5:問題なし
30160	屋上	外部金物	トブライトの転落防止策有無	目視により確認する	無記入:対象なし 1:無し 5:有り
40	建築物の内部				
40010	防火区画	防火区画の外周部	令第112条第10項に規定する外壁等及び同条第11項に規定する防火設備の劣化及び損傷の状況	目視により確認する	令第112条第10項に規定する外壁等、同条第11項に規定する防火設備に損傷があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし
40020	壁の室内に面する部分	躯体等	木造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	木材に著しい腐朽、損傷若しくは虫害があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40030			組積造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	れんが、石等に割れ、ずれ等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40040			補強コンクリートブロック造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	目地モルタルに著しい欠落があること又はブロック積みに変位があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40050	壁の室内に面する部分	躯体等	鉄骨造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	鋼材に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40060			鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	コンクリート面に鉄筋露出又は著しい白華、ひび割れ、欠損等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する

現地調査評価表(別紙1-2)記入要綱

番号	調査項目			調査方法	判定基準 現地調査評価表(別紙1ー2)記入要綱
40070	床	床躯体等	木造の床躯体の劣化及び損傷の状況	目視により確認する	木材に著しい腐朽、損傷若しくは虫害があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40080			鉄骨造の床躯体の劣化及び損傷の状況	目視により確認する	鋼材に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40090			鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の床躯体の劣化及び損傷の状況	目視により確認する	コンクリート面に鉄筋露出又は著しい白華、ひび割れ、欠損等があること 無記入:対象なし 1:かなり有る(多数) 3:一部有る(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40100	天井及び特定天井の劣化		天井の老朽化状況及び特定天井の天井材の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又はテストハンマーによる打診等により確認する	室内に面する部分の仕上げに浮き、たわみ等の劣化若しくは損傷があること又は剥落等があること、また天井材に腐食、緩み、外れ、欠損、たわみ等があること 無記入:対象なし 1:かなり劣化している(仕上材の落下・下地の露出など) 3:一部劣化している(仕上材の破損など) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40110	石綿等を添加した建築材料		囲い込み又は封じ込めによる飛散防止措置の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	石綿飛散防止剤又は囲い込み材に亀裂、剥落等の劣化又は損傷があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし
※対象校及び該当箇所 施設対象外					
40120	内部建具の老朽化状況		内部建具の劣化、防火シャッター、防火戸の劣化	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり劣化している(破損のおそれ・全体的な劣化・使用上の支障あり) 3:一部劣化している(部分的) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40130	内部建具の作動状況		内部建具の動作状況、防火シャッター、防火戸の動作状況	目視により確認する	無記入:対象なし 1:作動しない・作動が困難 3:多少難あり 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40140	すりガラスの有無		すりガラスの有無	目視により確認する	内部木製建具に取付られた、割れ易い曇りガラス 無記入:対象なし 1:有り 5:無し ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40150	ガラスの劣化ひび割		ガラスの劣化ひび割	目視により確認する	無記入:対象なし 1:有り 5:無し ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40160	照明器具取付金物等の劣化・ゆるみ		照明器具取付金物等の劣化・ゆるみ	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(機器の傾き・取付金物の脱落など) 3:一部有る(取付金物のゆるみなど) 5:問題なし ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する
40170	吊り下げ式照明の有無		吊り下げ式照明の有無	目視により確認する	無記入:対象なし 1:有り 5:無し ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する

現地調査評価表(別紙1-2)記入要綱

番号	調査項目		調査方法	判定基準 現地調査評価表(別紙1-2)記入要綱	
40180	足がかりとなる固定柵等の有無	足がかりとなる固定柵等の有無	目視により確認する	無記入:対象なし 1:有り 5:無し ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する	
40190	不自由な段差の有無(玄関・廊下・トイレ)	不自由な段差の有無(玄関・廊下・トイレ)	目視により確認する	無記入:対象なし 1:有り 5:無し ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する	
40200	手摺の有無(階段・トイレ)	手摺の有無(階段・トイレ)	目視により確認する	無記入:対象なし 1:無し 5:有り ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する	
40210	空調機の有無	空調機の有無	目視により確認する	無記入:対象なし 1:無し 5:有り ※室・廊下毎に評価し、平均点を算定する	
40220	体育館のバスケットゴールの劣化・ゆるみ	体育館のバスケットゴールの劣化・ゆるみ	目視により確認する	無記入:対象なし 1:かなり有る(機器の傾き・取付金物の脱落など) 3:一部有る(取付金物のゆるみなど) 5:問題なし	
50	避難施設等				
50010	避難上有効なバルコニー	手すり等の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する	著しい錆又は腐食があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし	
50020	階段	階段各部の劣化及び損傷の状況	目視により確認する	歩行上支障があるひび割れ、錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし	
50030	防煙壁	防煙壁の劣化及び損傷の状況	目視により確認する	防煙壁にき裂、破損、変形等があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし	
60	その他				
60010	避雷設備		避雷針、避雷導線等の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	避雷針又は避雷導線が腐食、破損又は破断していること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし
60020	煙突	建築物に設ける煙突	煙突本体及び建築物との接合部の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	煙突本体及び建築物との接合部に著しいひび割れ、肌分かれ等があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし
60030			付帯金物の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する	付帯金物に著しい錆、腐食等があること 無記入:対象なし 1:要是正 5:指摘なし

特定建築物等の調査方法、判定基準

特定建築物等の調査方法、判定基準は、平成20年国土交通省告示第282号に示されている。

別表 第一号 (赤字表示：令和5年4月以降の変更部分)

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準
1	敷地及び地盤			
(1)	地盤	地盤沈下等による不陸、傾斜等の状況	目視により確認する。	建築物周辺に陥没があり、安全性を著しく損ねていること。
(2)	敷地	敷地内の排水の状況	目視により確認する。	排水管の詰まりによる汚水の溢れ等により衛生上問題があること。
(3)	令第128条に規定する通路（敷地内の通路という。）	敷地内の通路の確保の状況	目視により確認する。	敷地内の通路が確保されていないこと。
(4)		有効幅員の確保の状況	設計図書等により確認し又は鋼製巻尺等により測定する。	敷地内の通路の有効幅員が不足していること。
(5)		敷地内の通路の支障物の状況	目視により確認する。	敷地内の通路に支障物があること。
(6)	塀	組積造の塀又は補強コンクリートブロック造の塀等の耐震対策の状況	設計図書等により確認し又は鋼製巻尺等により測定する。	令第61条又は令第62条の8の規定に適合しないこと。
(7)		組積造の塀又は補強コンクリートブロック造の塀等の劣化及び損傷の状況	目視、下げ振り等により確認する。	著しいひび割れ、破損又は傾斜が生じていること。
(8)	擁壁	擁壁の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	著しい傾斜若しくはひび割れがあること又は目地部より土砂が流出していること。
(9)		擁壁の水抜きパイプの維持保全の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認するとともに、手の届く範囲は必要に応じて鉄筋棒等を挿入し確認する。	水抜きパイプに詰まりがあること。
2	建築物の外部			
(1)	基礎	基礎の沈下等の状況	目視及び建具の開閉具合等により確認する。	地盤沈下に伴う著しいひび割れがあること又は建具開閉等に支障があること。
(2)		基礎の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。	礎石にずれがあること又はコンクリート面に鉄筋露出若しくは著しいひび割れ、欠損等があること。
(3)	土台（木造に限る）	土台の沈下等の状況	目視及び建具の開閉具合等により確認する。	土台にたわみ、傾斜等があること又は建具開閉に支障があること。
(4)		土台の劣化及び損傷の状況	目視及び手の届く範囲をテストハンマーによる打診等により確認する。	木材に著しい腐朽、損傷若しくは虫害があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること。
(5)	外壁 躯体等	外壁、軒裏及び外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の防火対策の状況	設計図書等により確認する。	法第23条、第25条又は第61条の規定に適合しないこと。
(6)		木造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	木材に著しい腐朽、損傷若しくは虫害があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること。
(7)		組積造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	れんが、石等に割れ、ずれ等があること。
(8)		補強コンクリートブロック造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	目地モルタルに著しい欠落があること又はブロック積みに変位等があること。
(9)		鉄骨造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	鋼材に著しい錆、腐食等があること。
(10)		鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	コンクリート面に鉄筋露出又は著しい白華、ひび割れ、欠損等があること。

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準	
(11)	外壁	外装仕上げ材等	開口隅部、水平打継部、斜壁部等のうち手の届く範囲をテストハンマーによる打診等（無人航空機による赤外線調査であつて、テストハンマーによる打診と同等以上の精度を有するものを含む。以下この項において同じ。）により確認し、その他の部分は必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し、異常が認められた場合にあっては、全面打診等（落下により歩行者等に危害を加えるおそれのある部分の全面的な打診等をいう。以下この項において同じ。）により確認する。 ただし、竣工後、外壁改修後又は全面打診等を実施した後10年を超え、最初に実施する定期調査等にあっては、全面打診等により確認する （3年以内に実施された全面打診等の結果を確認する場合、3年以内に外壁改修等が行われることが確実である場合又は別途歩行者等の安全を確保するための対策を講じている場合を除く。）。 外壁タイル等に剥落等があること又は著しい白華、ひび割れ、浮き等があること。		
(12)		乾式工法によるタイル、石貼り等の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	ひび割れ、欠損等があること。	
(13)		金属系パネル（帳壁を含む）の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	パネル面又は取合い部が著しい錆等により変形していること。	
(14)		コンクリート系パネル（帳壁を含む）の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	錆汁を伴ったひび割れ、欠損等があること。	
(15)		窓サッシ等	サッシ等の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又は開閉により確認する。	サッシ等の腐食又はネジ等の緩みにより変形していること
(16)			はめ殺し窓のガラスの固定の状況	触診により確認する。	昭和46年建設省告示第109号第3第4号の規定に適合していないこと。
(17)		外壁に緊結された広告板、空調室外機等	機器本体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	機器本体に著しい錆又は腐食があること。
(18)			支持部分等の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又は手の届く範囲をテストハンマーによる打診等により確認する。	支持部分に緊結不良があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること。
3	屋上及び屋根				
(1)	屋上面	屋上面の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。	歩行上危険なひび割れ若しくは反りがあること又は伸縮目地材が欠落し植物が繁茂していること。	
(2)	屋上回り（屋上面を除く）	パラペットの立ち上り面の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する。	モルタル等の仕上材に著しい白華、ひび割れ等があること又はパネルが破損していること。	
(3)		笠木モルタル等の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する。	モルタル面に著しいひび割れ、欠損等があること。	
(4)		金属笠木の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する。	笠木に著しい錆若しくは腐食があること又は笠木接合部に緩みがあり部分的に変形していること。	
(5)		排水溝（ドレーンを含む）の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する。	排水溝のモルタルに著しいひび割れ、浮き等があること。	

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準
(6)	屋根	屋根の防火対策の状況	設計図書等により確認する。	防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根にあっては法第62条の規定に適合しないこと又は法第22条の規定に基づき特定行政庁が防火地域及び準防火地域以外の市街地について指定する区域内の建築物の屋根にあっては同条の規定に適合しないこと。
(7)		屋根の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又はテストハンマーによる打診等により確認する。	屋根ふき材に割れがあること又は緊結金物に著しい腐食等があること。
(8)	機器及び工作物 (冷却塔設備、広告塔等)	機器、工作物本体及び接合部の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する。	機器若しくは工作物本体又はこれらと屋上及び屋根との接合部に著しい錆、腐食等があること。
(9)		支持部分等の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する。	支持部分に緊結不良若しくは緊結金物に著しい腐食等又はコンクリート基礎等に著しいひび割れ、欠損等があること。
4	建築物の内部			
(1)	防火区画	令第112条第11項から第13項までに規定する区画の状況 (堅穴区画)	設計図書等により確認する。	令第112条第11項から第13項までの規定に適合しないこと。ただし、令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合を除く。
(2)		令第112条第1項、第4項、第5項又は第7項から第10項までの各項に規定する区画の状況 (面積区画・高層区画)	設計図書等により確認する。	令第112条第1項、第4項、第5項又は第7項から第10項まで（令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては、第7項を除く。）の規定に適合しないこと。
(3)		令第112条第18項に規定する区画の状況 (異種用途区画)	設計図書等により確認する。	令第112条第18項の規定に適合しないこと。ただし、令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合を除く。
(4)		防火区画の外周部	令第112条第16項に規定する外壁等及び同条第17項に規定する防火設備の処置の状況	設計図書等により確認する。
(5)			令第112条第16項に規定する外壁等及び同条第17項に規定する防火設備の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。
(6)	壁の室内に面する部分	躯体等	木造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	木材に著しい腐朽、損傷若しくは虫害があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること。
(7)			組積造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。
(8)			補強コンクリートブロック造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。
(9)			鉄骨造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。
(10)			鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準
(11)	壁 の 室 内 に 面 す る 部 分	耐火構造の壁又は準耐火構造の壁（防火区画を構成する壁に限る）	準耐火性能等の確保の状況	設計図書等により確認する。
(12)		部材の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。	各部材及び接合部に穴又は破損があること。
(13)		鉄骨の耐火被覆の劣化及び損傷の状況	設計図書等により確認し、修繕等が行われ、かつ、点検口等がある場合にあっては、点検口等から目視により確認する。	耐火被覆の剥がれ等により鉄骨が露出していること。
(14)		給水管、配電管その他の管又は風道の区画貫通部の充填等の処理の状況	設計図書等により確認し、修繕等が行われ、かつ、点検口等がある場合にあっては、点検口等から目視により確認する。	令第112条第20項若しくは第21項又は令第129条の2の4の規定に適合しないこと。
(15)		令第114条に規定する界壁、間仕切壁及び隔壁	令第114条に規定する界壁、間仕切壁及び隔壁の状況	設計図書等により確認し、法第12条第1項の規定に基づく調査以後に法第6条第1項の規定に基づく確認を要しない規模の修繕等が行われ、かつ、点検口等がある場合にあっては、点検口等から目視により確認する。
(16)		令第128条の5各項に規定する建築物の壁の室内に面する部分	室内に面する部分の仕上げの維持保全の状況	設計図書等により確認する。
(17)	床	躯体等	木造の床躯体の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。
(18)			鉄骨造の床躯体の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。
(19)			鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の床躯体の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。

次の各号のいずれかに該当すること。

(1) 令第112条第1項、第4項から第6項まで又は第18項（令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ、全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては、第18項を除く。）の規定による防火区画一時間準耐火基準に適合しないこと。

(2) 令第112条第7項又は第10項（令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ、全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては、第7項を除く。）の規定による防火区画 令第107条の規定に適合しないこと。

(3) 令第112条第11項から第13項まで又は第16項（令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ、全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては、第11項から第13項までを除く。）の規定による防火区画 令第107条の2の規定に適合しないこと。

令第112条第20項若しくは第21項又は令第129条の2の4の規定に適合しないこと。

令第128条の5（令第128条の7第1項の規定が適用され、かつ区画避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合、令第129条第1項の規定が適用され、かつ階避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合又は令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては、第2項、第6項、第7項及び階段に係る部分以外の規定を除く。）の規定に適合しないこと。

木材に著しい腐朽、損傷若しくは虫害があること又は緊結金物に著しい錆、腐食等があること。

鋼材に著しい錆、腐食等があること。

コンクリート面に鉄筋露出又は著しい白華、ひび割れ、欠損等があること。

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準
(20)	床	耐火構造の床又は準耐火構造の床（防火区画を構成する床に限る。）	準耐火性能等の確保の状況	設計図書等により確認する。
(21)			部材の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。
(22)			給水管、配電管その他の管又は風道の区画貫通部の充填等の処理の状況	設計図書等により確認し、修繕等が行われ、かつ、点検口等がある場合にあっては点検口等から目視により確認する。
(23)	天井	令第128条の5各項に規定する建築物の天井の室内に面する部分	室内に面する部分の仕上げの維持保全の状況	設計図書等により確認する。
(24)			室内に面する部分の仕上げの劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又はテストハンマーによる打診等により確認する。
(25)		特定天井	特定天井の天井材の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。
(26)	防火設備（防火扉、防火シャッターその他これらに類するものに限る。以下同じ。）又は戸		区画に対応した防火設備又は戸の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。
(27)			居室から地上へ通じる主たる廊下、階段その他の通路に設置された防火設備又は戸におけるくぐり戸の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。
(28)			昭和48年建設省告示第2563号第1第1号ロに規定する基準についての適合の状況	常時閉鎖した状態にある防火扉又は戸（以下、「常閉防火扉等」という）にあっては、各階の主要な常閉防火扉等の閉鎖時間をストップウォッチ等により測定し、扉の重量により運動エネルギーを確認するとともに、必要に応じて閉鎖する力をテンションゲージ等により測定する。 ただし、3年以内に実施した点検の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することと足りる。

	(い) 調査項目	(ろ) 調査方法	(は) 判定基準
(29)	防火設備（防火扉、防火シャッターその他これらに類するものに限る。以下同じ。）又は戸	防火扉又は戸の開放方向	目視により確認する。
(30)		常時閉鎖又は作動した状態にある防火設備又は戸（以下「常閉防火設備等」という）の本体と枠の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。
(31)		常閉防火設備等の閉鎖又は作動の状況	各階の主要な常閉防火設備の閉鎖又は作動を確認する。ただし、3年以内に実施した点検の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。
(32)		常閉防火設備等の閉鎖又は作動の障害となる物品の放置の状況	目視により確認する。
(33)		常閉防火扉等の固定の状況	目視により確認する。
(34)	照明器具、懸垂物等	照明器具、懸垂物等の落下防止対策の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認し又は触診により確認する。
(35)		防火設備又は戸の閉鎖の障害となる照明器具、懸垂物等の状況	目視により確認する。
(36)	警報設備	警報設備の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。ただし、6月以内に実施した消防法（昭和23年法律第186号）第17条の3の3の規定に基づく点検（以下「消防法に基づく点検」という。）の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。
(37)		警報設備の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。ただし、6月以内に実施した消防法に基づく点検の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。
(38)	居室の採光及び換気	採光のための開口部の面積の確保の状況	設計図書等により確認し又は鋼製巻尺等により測定する。
(39)		採光の妨げとなる物品の放置の状況	目視により確認する。
(40)		換気のための開口部の面積の確保の状況	設計図書等により確認し又は鋼製巻尺等により測定する。
(41)		換気設備の設置の状況	設計図書等により確認する。
(42)		換気設備の作動の状況	各階の主要な換気設備の作動を確認する。ただし、3年以内に実施した法第12条第3項の規定に基づく検査（以下「定期検査」という。）の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。
(43)		換気の妨げとなる物品の放置の状況	目視により確認する。

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準
(44)	石綿等を添加した建築材料	吹付け石綿及び吹付けロックウールでその含有する石綿の重量が当該建築材料の重量の0.1%を超えるもの（以下「吹付け石綿等」という。）の使用の状況	設計図書、分析機関による分析結果、目視等により確認する。	平成18年国土交通省告示第1172号各号に定める石綿をあらかじめ添加した建築材料を使用していること。
(45)		吹付け石綿等の劣化の状況	3年以内に実施した劣化状況調査の結果を確認する。	表面の毛羽立ち、繊維のくずれ、たれ下がり、下地からの浮き、剥離等があること又は3年以内に劣化状況調査が行われていないこと。
(46)		除去又は囲い込み若しくは封じ込めによる飛散防止措置の実施の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	次に掲げる各号の何れかに該当すること (1) 増築若しくは改築を行った場合の当該部分、増築若しくは改築に係る部分の床面積の合計が令第137条に定める基準時（以下「基準時」という。）における延べ面積の2分の1を超える増築若しくは改築を行った場合の当該部分以外の部分又は大規模の修繕若しくは大規模の模様替えを行った場合の当該部分において、吹付け石綿等の除去をしていないこと。 (2) 増築若しくは改築に係る部分の床面積の合計が基準時における延べ面積の2分の1を超えない増築若しくは改築を行った場合の当該部分以外の部分又は大規模の修繕若しくは大規模の模様替えを行った場合の当該部分以外の部分において、吹付け石綿等の除去、封じ込め又は囲い込みをしていないこと。
(47)		囲い込み又は封じ込めによる飛散防止措置の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	石綿飛散防止剤又は囲い込み材に亀裂、剥落等の劣化又は損傷があること。
5	避難施設等			
(1)	令第120条第2項に規定する通路	令第120条第2項に規定する通路の確保の状況	設計図書等により確認する。	令第120条又は第121条（令第129条第1項の規定が適用され、かつ階避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合又は令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては、令第120条を除く。）の規定に適合しないこと
(2)	廊下	幅員の確保の状況	設計図書等により確認し又は鋼製巻尺等により測定する。	幅が令第119条の規定に適合しないこと。ただし、令第129条第1項の規定が適用され、かつ、階避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合又は令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合を除く。
(3)		物品の放置の状況	目視により確認する。	避難の支障となる物品が放置されていること。
(4)	出入口	出入口の確保の状況	目視及び設計図書等により確認する。	令第118条、第124条、第125条又は第125条の2（令第129条第1項の規定が適用され、かつ、階避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては令第124条第1項第2号を除き、令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては令第124条第1項並びに第125条第1項及び第3項を除く。）の規定に適合しないこと。
(5)		物品の放置の状況	目視により確認する。	物品が放置されていることにより扉等の開閉に支障があること。
(6)	屋上広場	屋上広場の確保の状況	目視により確認する。	令第126条の規定に適合しないこと。
(7)	避難上有効なバルコニー	避難上有効なバルコニーの確保の状況	目視及び設計図書等により確認する。	令第121条の規定に適合しないこと。
(8)		手すり等の劣化及び損傷の状況	目視及びテストハンマーによる打診等により確認する。	著しい錆又は腐食があること。
(9)		物品の放置の状況	目視により確認する。	避難に支障となる物品が放置されていること。
(10)		避難器具の操作性の確保の状況	目視及び作動により確認する。	避難ハッチが開閉できないこと又は避難器具が使用できないこと。

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準
(11)	階段	直通階段の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。	令第120条、第121条、又は第122条（令第129条第1項の規定が適用され、かつ階避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合又は令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ、全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては、令第120条を除く。）の規定に適合しないこと。
(12)		幅員の確保の状況	設計図書等により確認し又は鋼製巻尺等により測定する。	令第23条、第24条又は第124条（令第129条第1項の規定が適用され、かつ階避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては令第124条第1項第2号を除き、令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては令第124条第1項を除く。）の規定に適合しないこと。
(13)		手すりの設置の状況	目視により確認する。	令第25条の規定に適合しないこと。
(14)		物品の放置の状況	目視により確認する。	通行に支障となる物品が放置されていること。
(15)		階段各部の劣化及び損傷の状況	目視、触診、設計図書等により確認する。	モルタル等の仕上げ材にひび割れがあること、鋼材に錆又は腐食があること、木材に腐朽、損傷又は虫害があること、防水層に損傷があること等により安全上支障が生ずるおそれがあること又は安全上支障が生じていること。
(16)	階段	屋内に設けられた避難階段 階段室の構造の状況	目視及び設計図書等により確認する。	令第123条第1項（令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては第1号及び第6号を除く。）の規定に適合しないこと。
(17)		屋外に設けられた避難階段 屋内と階段との間の防火区画の確保の状況	目視及び設計図書等により確認する。	令第123条第2項（令第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては第2項第2号を除く。）の規定に適合しないこと。
(18)		開放性の確保の状況	目視及び設計図書等により確認する。	開放性が阻害されていること。
(19)	特別避難階段	令第123条第3項第1号に規定するバルコニー（以下単に「バルコニー」という）又は付室（以下単に「付室」という）の構造及び面積の確保の状況	設計図書等により特別避難階段の位置及びバルコニー又は付室の構造を確認する。	令第123条第3項（令第129条第1項の規定が適用され、かつ階避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては第1号、第2号、第10号（屋内からバルコニー又は付室に通ずる出入口に係る部分に限る。）及び第12号を除き、第129条の2第1項の規定が適用され、かつ全館避難安全性能に影響を及ぼす修繕等が行われていない場合にあっては第1号から第3号まで、第10号及び第12号を除く。）の規定に適合していないこと。
(20)		階段室又は付室（以下「付室等」という）の排煙設備の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。	排煙設備が設置されていないこと。
(21)		付室等の排煙設備の作動の状況	各階の主要な排煙設備の作動を確認する。ただし、3年以内に実施した定期検査の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。	排煙設備が作動しないこと。
(22)		付室等の外気に向かって開くことができる窓の状況	目視及び作動により確認する。	外気に向かって開くことができる窓が開閉しないこと又は物品により排煙に支障があること。
(23)		物品の放置の状況	目視により確認する。	バルコニー又は付室に物品が放置されていること。

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準
(24)	排煙設備等	防煙壁	防煙区画の設置の状況	設計図書等により確認する。
(25)		防煙壁	防煙壁の劣化及び損傷の状況	目視により確認する。
(26)		防煙壁	可動式防煙壁の作動の状況	各階の主要な可動式防煙壁の作動を確認する。ただし、3年以内に実施した定期検査の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。
(27)	排煙設備	排煙設備	排煙設備の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。
(28)		排煙設備	排煙設備の作動の状況	各階の主要な排煙設備の作動を確認する。ただし、3年以内に実施した定期検査の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。
(29)		排煙設備	自然排煙口の維持保全の状況	目視により確認するとともに、開閉を確認する。
(30)	その他の設備等	非常用の進入口等	非常用の進入口等の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。
(31)		非常用の進入口等	非常用の進入口等の維持保全の状況	目視により確認する。
(32)		非常用エレベーター	令第129条の13の3第3項に規定する乗降ロビー（以下単に「乗降ロビー」という）の構造及び面積の確保の状況	目視及び設計図書等により確認する。
(33)		非常用エレベーター	昇降路又は乗降ロビー（以下「乗降ロビー等」という）の排煙設備の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。
(34)		非常用エレベーター	乗降ロビー等の排煙設備の作動の状況	各階の主要な排煙設備の作動を確認する。ただし、3年以内に実施した定期検査の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。
(35)		非常用エレベーター	乗降ロビー等の外気に向かって開くことができる窓の状況	目視により確認するとともに、開閉を確認する。
(36)		非常用エレベーター	物品の放置の状況	目視により確認する。
(37)		非常用エレベーター	非常用エレベーターの作動の状況	非常用エレベーターの作動を確認する。ただし、3年以内に実施した定期検査の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。

	(い) 調査項目		(ろ) 調査方法	(は) 判定基準	
(38)	その他の設備等	非常用の照明装置の設置の状況	目視及び設計図書等により確認する。	令第126条の4の規定に適合しないこと。	
(39)		非常用の照明装置の作動の状況	各階の主要な非常用の照明装置の作動を確認する。ただし、3年以内に実施した定期検査の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。	非常用の照明装置が作動しないこと。	
(40)		照明の妨げとなる物品の放置の状況	目視により確認する。	照明の妨げとなる物品が放置されていること。	
6	その他				
(1)	特殊な構造等	膜構造建築物の膜体、取付部材等	膜体及び取付部材の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。ただし、3年以内に実施した点検の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。	膜体に破れ、雨水貯留、接合部の剥がれ等があること。
(2)		膜構造建築物の膜体、取付部材等	膜張力及びケーブル張力の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。ただし、3年以内に実施した点検の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。	膜張力又はケーブル張力が低下していること。
(3)		免震構造建築物の免震層及び免震装置	免震装置の劣化及び損傷の状況（免震装置が可視状態にある場合に限る）	目視により確認するとともに、3年以内に実施した点検の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。	鋼材部分に著しい錆、腐食等があること。
(4)		免震構造建築物の免震層及び免震装置	上部構造の可動の状況	目視により確認する。ただし、3年以内に実施した点検の記録がある場合にあっては、当該記録により確認することで足りる。	上部構造の水平移動に支障がある状態となっていること又は障害物があること。
(5)	避雷設備		避雷針、避雷導線等の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	避雷針又は避雷導線が腐食、破損又は破断していること。
(6)	煙突	建築物に設ける煙突	煙突本体及び建築物との接合部の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	煙突本体及び建築物との接合部に著しいひび割れ、肌分かれ等があること。
(7)		煙突	付帯金物の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	付帯金物に著しい錆、腐食等があること。
(8)		令第138条第1項第1号に掲げる煙突	煙突本体の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	煙突本体に鉄筋露出若しくは腐食又は著しい錆、錆汁、ひび割れ、欠損等があること。
(9)		掲げる煙突	付帯金物の劣化及び損傷の状況	必要に応じて双眼鏡等を使用し目視により確認する。	アンカーボルト等に著しい錆、腐食、緊結不良等があること。

特記事項

調査項目	指摘の具体的内容	改善策の具体的内容
施設建物の劣化状況と対策		
転倒、落下物の危険性と対策		
バリアフリー上の課題		

[illegible]

[illegible]

[illegible]

別記第一号（A4）

調査結果表

当該調査 に関与し た調査者		氏 名	調査者番号			
	代表となる調査者					
	その他の調査者					

番号	調 査 項 目	対象 の有無	調査結果			状況、対策等	担当 調査 者 番号
			指摘 なし	要 是 正	既存 不適 格		
1	敷地及び地盤						
(1)	地盤	地盤沈下等による不陸、傾斜等の状況					
(2)	敷地	敷地内の排水の状況					
(3)	敷地内の通路	敷地内の通路の確保の状況					
(4)		有効幅員の確保の状況					
(5)		敷地内の通路の支障物の状況					
(6)	塀	組積造の塀又は補強コンクリートブロック造の塀等の耐震対策の状況					
(7)		組積造の塀又は補強コンクリートブロック造の塀等の劣化及び損傷の状況					
(8)	擁壁	擁壁の劣化及び損傷の状況					
(9)		擁壁の水抜きパイプの維持保全の状況					
2	建築物の外部						
(1)	基礎	基礎の沈下等の状況					
(2)		基礎の劣化及び損傷の状況					
(3)	土台（木造に限る。）	土台の沈下等の状況					
(4)		土台の劣化及び損傷の状況					
(5)	外壁	躯体等	外壁、軒裏及び外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の防火対策の状況				
(6)			木造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況				
(7)			組積造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況				
(8)			補強コンクリートブロック造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況				
(9)			鉄骨造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況				
(10)			鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の外壁躯体の劣化及び損傷の状況				
(11)	外装仕上げ材等	タイル、石貼り等（乾式工法によるものを除く。）、モルタル等の劣化及び損傷の状況					
(12)		乾式工法によるタイル、石貼り等の劣化及び損傷の状況					
(13)		金属系パネル（帳壁を含む。）の劣化及び損傷の状況					

番号	調 査 項 目		対象 の有無	調査結果			状況、対策等	担当 調査 者 番号	
				指摘 なし	要是 正	既存 不適 格			
(14)	外 壁	外装仕上げ材等	コンクリート系パネル（帳壁を含む。）の劣化及び損傷の状況						
(15)		窓サッシ等	サッシ等の劣化及び損傷の状況						
(16)			はめ殺し窓のガラスの固定の状況						
(17)		外壁に緊結された広告板、空調室外機等	機器本体の劣化及び損傷の状況						
(18)			支持部分等の劣化及び損傷の状況						
3 屋上及び屋根									
(1)	屋上面		屋上面の劣化及び損傷の状況						
(2)	屋上周り（屋上面を除く。）	パラペットの立上り面の劣化及び損傷の状況							
(3)		笠木モルタル等の劣化及び損傷の状況							
(4)		金属笠木の劣化及び損傷の状況							
(5)		排水溝（ドレーンを含む。）の劣化及び損傷の状況							
(6)	屋根	屋根の防火対策の状況							
(7)		屋根の劣化及び損傷の状況							
(8)	機器及び工作物（冷却塔設備、広告塔等）	機器、工作物本体及び接合部の劣化及び損傷の状況							
(9)		支持部分等の劣化及び損傷の状況							
4 建築物の内部									
(1)	防 火 区 画	令第112条第11項から第13項までに規定する区画の状況							
(2)		令第112条第 1 項、第 4 項、第 5 項又は第 7 項から第10項までの各項に規定する区画の状況							
(3)		令第112条第18項に規定する区画の状況							
(4)		防火区画の外周部	令第112条第16項に規定する外壁等及び同条第17項に規定する防火設備の処置の状況						
(5)			令第112条第16項に規定する外壁等及び同条第17項に規定する防火設備の劣化及び損傷の状況						
(6)	壁の室内に面する部分	躯体等	木造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況						
(7)			組積造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況						
(8)			補強コンクリートブロック造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況						
(9)			鉄骨造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況						
(10)			鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の壁の室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況						

番号	調 査 項 目			対象 の有無	調査結果			状況、対策等	担当 調査 者 番号
					指摘 なし	要 是 正	既存 不適 格		
(11)	壁 の 室 内 に 面 す る 部 分	耐火構造の壁 又は準耐火構 造の壁（防火 区画を構成す る壁に限 る。）	準耐火性能等の確保の状況						
(12)			部材の劣化及び損傷の状況						
(13)			鉄骨の耐火被覆の劣化及び損 傷の状況						
(14)			給水管、配電管その他の管又 は風道の区画貫通部の充填等 の処理の状況						
(15)		令第114条に 規定する界 壁、間仕切壁 及び隔壁	令第114条に規定する界壁、間 仕切壁及び隔壁の状況						
(16)		令第128条の5 各項に規定す る建築物の壁 の室内に面す る部分	室内に面する部分の仕上げの 維持保全の状況						
(17)	床	躯体等	木造の床躯体の劣化及び損傷 の状況						
(18)			鉄骨造の床躯体の劣化及び損 傷の状況						
(19)			鉄筋コンクリート造及び鉄骨 鉄筋コンクリート造の床躯体 の劣化及び損傷の状況						
(20)		耐火構造の床 又は準耐火構 造の床（防火 区画を構成す る床に限 る。）	準耐火性能等の確保の状況						
(21)			部材の劣化及び損傷の状況						
(22)			給水管、配電管その他の管又 は風道の区画貫通部の充填等 の処理の状況						
(23)	天井	令第128条の5 各項に規定す る建築物の天 井の室内に面 する部分	室内に面する部分の仕上げの 維持保全の状況						
(24)			室内に面する部分の仕上げの 劣化及び損傷の状況						
(25)		特定天井	特定天井の天井材の劣化及び 損傷の状況						
(26)	防火設備（防火 扉、防火シャ ッターその他これら に類するものに限 る。）又は戸	防火設備（防火 扉、防火シャ ッターその他これら に類するものに限 る。）又は戸	区画に対応した防火設備又は 戸の設置の状況						
(27)			居室から地上へ通じる主たる 廊下、階段その他の通路に設 置された防火設備又は戸にお けるくぐり戸の設置の状況						
(28)			昭和48年建設省告示第2563号 第1第1号ロに規定する基準 への適合の状況						

番号	調 査 項 目		対象 の有無	調査結果			状況、対策等	担当 調査 者 番号
				指摘 なし	要 正	既 存 不 適 格		
(29)	防火設備（防火扉、防火シャッターその他これらに類するものに限る。）又は戸	防火扉又は戸の開放方向						
(30)		常閉防火設備等の本体と枠の劣化及び損傷の状況						
(31)		常閉防火設備等の閉鎖又は作動の状況						
(32)		常閉防火設備等の閉鎖又は作動の障害となる物品の放置の状況						
(33)		常閉防火扉等の固定の状況						
(34)	照明器具、懸垂物等	照明器具、懸垂物等の落下防止対策の状況						
(35)		防火設備又は戸の閉鎖の障害となる照明器具、懸垂物等の状況						
(36)	警報設備	警報設備の設置の状況						
(37)		警報設備の劣化及び損傷の状況						
(38)	居室の採光及び換気	採光のための開口部の面積の確保の状況						
(39)		採光の妨げとなる物品の放置の状況						
(40)		換気のための開口部の面積の確保の状況						
(41)		換気設備の設置の状況						
(42)		換気設備の作動の状況						
(43)		換気の妨げとなる物品の放置の状況						
(44)	石綿等を添加した建築材料	吹付け石綿及び吹付けロックウールでその含有する石綿の重量が当該建築材料の重量の0.1パーセントを超えるもの（以下「吹付け石綿等」という。）の使用の状況						
(45)		吹付け石綿等の劣化の状況						
(46)		除去又は囲い込み若しくは封じ込めによる飛散防止措置の実施の状況						
(47)		囲い込み又は封じ込めによる飛散防止措置の劣化及び損傷の状況						
5 避難施設等								
(1)	令第120条第2項に規定する通路	令第120条第2項に規定する通路の確保の状況						
(2)	廊下	幅員の確保の状況						
(3)		物品の放置の状況						
(4)	出入口	出入口の確保の状況						
(5)		物品の放置の状況						
(6)	屋上広場	屋上広場の確保の状況						

番号	調 査 項 目		対象 の有無	調査結果			状況、対策等	担当 調査 者 番号
				指摘 なし	要 是 正	既存 不適 格		
(7)	避難上有効なバルコニー	避難上有効なバルコニーの確保の状況						
(8)		手すり等の劣化及び損傷の状況						
(9)		物品の放置の状況						
(10)		避難器具の操作性の確保の状況						
(11)	階段	階段	直通階段の設置の状況					
(12)			幅員の確保の状況					
(13)			手すりの設置の状況					
(14)			物品の放置の状況					
(15)			階段各部の劣化及び損傷の状況					
(16)		屋内に設けられた避難階段	階段室の構造の確保の状況					
(17)		屋外に設けられた避難階段	屋内と階段との間の防火区画の確保の状況					
(18)			開放性の確保の状況					
(19)		特別避難階段	バルコニー又は付室の構造及び面積の確保の状況					
(20)			付室等の排煙設備の設置の状況					
(21)			付室等の排煙設備の作動の状況					
(22)			付室等の外気に向かって開くことができる窓の状況					
(23)			物品の放置の状況					
(24)		排煙設備等	防煙壁	防煙区画の設置の状況				
(25)	防煙壁の劣化及び損傷の状況							
(26)	可動式防煙壁の作動の状況							
(27)	排煙設備		排煙設備の設置の状況					
(28)			排煙設備の作動の状況					
(29)			自然排煙口の維持保全の状況					
(30)	その他の設備等	非常用の進入口等	非常用の進入口等の設置の状況					
(31)			非常用の進入口等の維持保全の状況					
(32)		非常用エレベーター	乗降ロビーの構造及び面積の確保の状況					
(33)			乗降ロビー等の排煙設備の設置の状況					
(34)			乗降ロビー等の排煙設備の作動の状況					
(35)			乗降ロビー等の外気に向かって開くことができる窓の状況					
(36)			物品の放置の状況					
(37)			非常用エレベーターの作動の状況					

番号	調 査 項 目			対象 の有無	調査結果			状況、対策等	担当 調査 者 番号
					指摘 なし	要 是 正	既存 不適 格		
(38)	その他 設備等	非常用の照明装置	非常用の照明装置の設置の状況						
(39)			非常用の照明装置の作動の状況						
(40)			照明の妨げとなる物品の放置の状況						
6	その他								
(1)	特殊な 構造等	膜構造建築物の膜体、取付部材等	膜体及び取付部材の劣化及び損傷の状況						
(2)			膜張力及びケーブル張力の状況						
(3)		免震構造建築物の免震層及び免震装置	免震装置の劣化及び損傷の状況（免震装置が可視状態にある場合に限る。）						
(4)			上部構造の可動の状況						
(5)	避雷設備		避雷針、避雷導線等の劣化及び損傷の状況						
(6)	煙突	建築物に設ける煙突	煙突本体及び建築物との接合部の劣化及び損傷の状況						
(7)			付帯金物の劣化及び損傷の状況						
(8)		令第138条第1項第1号に掲げる煙突	煙突本体の劣化及び損傷の状況						
(9)			付帯金物の劣化及び損傷の状況						
7	上記以外の調査項目								
その他確認事項									
法第12条第3項の規定による検査を要する防火設備の有無									
<input type="checkbox"/> 有（ 階） <input type="checkbox"/> 無									
特記事項									
番号	調査項目		指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等			改善（予定）年月		

(注意)

- ① この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該調査に関与した調査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36号の2様式第一面3欄に記入した調査者について記入し、「調査者番号」欄に調査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該建築物の調査を行った調査者が1人の場合は、その他の調査者欄は削除して構いません。
- ④ 該当しない調査項目がある場合は、当該項目の「番号」欄から「担当調査者番号」欄までを取消線で抹消してください。
【注意：神奈川県内は対象の有無欄に対象であれば○を記入し、該当しない場合でも抹消する必要はありません。】
- ⑤ 「調査結果」欄は、別表第1（い）欄に掲げる各調査項目ごとに記入してください。
- ⑥ 「調査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表第1（い）欄に掲げる調査項目について（は）欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に○印を記入した場合で、建築基準法第3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、○印を記入してください。
- ⑨ 「担当調査者番号」欄は、「調査に関与した調査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該建築物の調査を行った調査者が1人の場合は、記入しなくても構いません。
- ⑩ 7「上記以外の調査項目」欄は第2の規定により特定行政庁が調査項目を追加したときに、特定行政庁が追加した調査項目を追加し、⑤から⑧に準じて調査結果等を記入してください。なお、これらの項目がない場合は、7は削除して構いません。
- ⑪ 「その他確認事項」は、法12条第3項の規定による検査を要する随時閉鎖又は作動ができる防火設備の設置の有無を確認し、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。「有」の場合は、当該防火設備が設置されている階を記入してください。
- ⑫ 「特記事項」は、調査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっても特記すべき事項がある場合に、該当する調査項目の番号、調査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善（予定）年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善（予定）年月」欄に当該年月を（ ）書きで記入してください。
- ⑬ 配置図及び各階平面図を別添1の様式に従い添付し、指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所や撮影した写真の位置等を明記してください。
- ⑭ 要是正とされた調査項目（既存不適格の場合を除く。）については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付してください。

調査項目	
1	敷地及び地盤
(1)	地盤
(2)	敷地
(3)から(5)	敷地内の通路
(6)から(7)	塀
(8)から(9)	擁壁
2	建築物の外部
(1)から(2)	基礎
(3)から(4)	土台(木造に限る。)
(5)から(18)	外壁
3	屋上及び屋根
(1)	屋上面
(2)から(5)	屋上周り(屋上面を除く。)
(6)から(7)	屋根
(8)から(9)	機器及び工作物(冷却塔設備、広告塔等)
4	建築物の内部
(1)から(5)	防火区画
(6)から(16)	壁の室内に面する部分
(17)から(22)	床
(23)から(25)	天井
(26)から(33)	防火設備
(34)から(35)	照明器具、懸垂物等
(36)から(37)	警報設備
(38)から(43)	居室の採光及び換気
(44)から(47)	石綿等を添加した建築材料
5	避難施設等
(1)	令第120条第2項に規定する通路
(2)から(3)	廊下
(4)から(5)	出入口
(6)	屋上広場
(7)から(10)	避難上有効なバルコニー
(11)から(23)	階段
(24)から(29)	排煙設備等
(30)から(40)	その他の設備等
6	その他
(1)から(4)	特殊な構造等
(5)	避雷設備
(6)から(9)	煙突
7	上記以外の調査項目

(注) 配置図及び各階平面図を添付し、指摘のあった箇所(特記すべき事項を含む)や撮影した写真の位置を明記すること。

部位	番号	調査項目	調査結果
			<input type="checkbox"/> 要是正 <input type="checkbox"/> その他
写真貼付		特記事項	

部位	番号	調査項目	調査結果
			<input type="checkbox"/> 要是正 <input type="checkbox"/> その他
写真貼付		特記事項	

- (注意)
- ① この書類は、調査の結果、「要是正」かつ「既存不適格」ではない項目について作成してください。また、「既存不適格」及び「指摘なし」の項目についても、特記すべき事項があれば、必要に応じて作成してください。「要是正」の項目がない場合は、この書類は省略しても構いません。
 - ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
 - ③ 「部位」欄の「番号」、「調査項目」は、それぞれ別記様式の番号、調査項目に対応したものを記入してください。
 - ④ 「調査結果」欄は、調査の結果、要是正の指摘があった場合は「要是正」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、それ以外の場合で特記すべき事項がある場合は「その他」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
 - ⑤ 写真は、当該部位の外観の状況が確認できるように撮影したものを添付してください。

非構造部材点検チェックリスト

通し番号

学校名		点検日			
点検者		点検箇所 (該当に○)	屋内運動場 校舎(棟)		
	氏名:	階		室名	

<<点検結果>> A : 異常は認められない、または対策済み
 B : 異常かどうか判断がつかない、わからない
 C : 異常が認められる

点検項目				点検種類	参照頁※1	点検方法			点検結果	特記事項 (建物名・部屋名・部材の状態等)
						目視	打診・触診	図面		
I 天 井	天 特 (1) 井 定	①技術基準への適合	技術基準に則した落下防止対策がとられているか。	耐震性	44					
	(2) 在 来 ／ 軽 鉄 下 地	①壁際の吊り方	野縁や野縁受けの端部の近くに吊りボルトがあるか。	耐震性	45					
		②設備周辺の天井材	照明や空調等の設備周辺の天井材に変形やずれは見当たらないか。	劣化	45					
		③天井の形状	折れ曲がり天井になっていないか。	耐震性	46					
		④天井材 (ずれなど)	天井材にずれ、ひび割れ、漏水跡が見当たらないか。	劣化	46					
	(3) 在 来 ／ 木 下 地	①木下地の配置	吊木等が適当な間隔で配置され、耐力が十分確保されているか。	耐震性	47					
		②下地材 (腐朽など)	天井の木下地材の腐朽、割れは見当たらないか。	劣化	47					
		③天井材 (ずれなど)	天井材にずれ、ひび割れ、漏水跡、天井面の著しい変形は見当たらないか。	劣化	47					
	(4) シ ス テ ム 天 井	①壁際の吊り方	Tバーの端部の近くに吊りボルトがあるか。	耐震性	48					
		②設備周辺の天井材	照明や空調等の設備周辺の天井材に変形やずれは見当たらないか。	劣化	48					
		③天井の形状	折れ曲がり天井になっていないか。	耐震性	49					
		④天井材 (ずれなど)	天井材にずれ、ひび割れ、漏水跡が見当たらないか。	劣化	49					
	直 (5) 張 り	①ボード類のずれなど	木毛セメント板等のボード類にずれ・ひび割れ、漏水跡は見当たらないか。	劣化	51					
	直 (6) 吹 付	①吹き付けの劣化	吹き付けに剥落、欠損、ひび割れ、浮きなどの劣化は見当たらないか。	劣化	51					
	直 (7) 塗 り	①モルタル (剥落など)	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、浮きなどの劣化は見当たらないか。	劣化	52					
(1) 吊 り 下 げ 形		①吊り材 (緊結)	照明器具の吊り材は支持材に緊結されているか。	耐震性	54					
		②落下防止対策 (屋内運動場等)	落下防止対策がとられているか。	耐震性	54					
		③取付け金物 (劣化)	ビス等の取付け金物に変形、腐食、緩みは見当たらないか。	劣化	54					

点検項目				点検種類	参照頁※1	点検方法			点検結果	特記事項 (建物名・部屋名・部材の状態等)
						目視	打診・触診	図面		
Ⅱ 照明器具	(2) 直付け形	①取付け部 (緊結)	照明器具は支持材に緊結されているか。	耐震性	55					
		②落下防止対策 (屋内運動場等)	落下防止対策がとられているか。	耐震性	55					
		③取付け部 (劣化)	照明器具の取付け部に変形、腐食、緩みは見当たらないか。	劣化	55					
	(3) 天井材埋込形	①落下防止対策	落下防止対策がとられているか。	耐震性	56					
		②取付け部 (劣化)	照明器具の取付け部に変形、腐食、緩みは見当たらないか。	劣化	56					
		③周辺の 天井材	照明器具周辺の天井材に変形やずれは見当たらないか。	劣化	56					
Ⅲ 窓・ガラス	FIX窓	①FIX(はめごろし)窓／硬化性パテ	FIX(はめごろし)窓のガラスの固定に硬化性パテを使用していないか。	耐震性	57					
	開閉窓	②開閉窓／引き違い窓	窓に動きにくさ、変形、腐食、ガタつき等の異常は見当たらないか	劣化	58					
	横連窓	③屋内運動場の横連窓	横連窓を支持する構造体の剛性が確保されているか。	耐震性	59					
Ⅳ 外壁(外装材)	モルタル(1)	①剥落など	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、浮きは見当たらないか。	劣化	61					
	ラス(2)	①剥落など	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、はらみが見当たらないか。	劣化	62					
Ⅳ 外壁(外装材)	(3) タイル	①目地	伸縮調整目地が要所に施工されているか。	耐震性	63					
		②剥落など	タイルに剥落、欠損、ひび割れ、浮きは見当たらないか。	劣化	63					
	(4) ALCパネルなど	①取付け工法	層間変位追従性が高い工法で設置しているか。	耐震性	64					
		②ひび割れなど	ALCパネルや押出成形セメント板などにずれ、ひび割れ、欠損、ガタつき、錆は見当たらないか。	劣化	65					
	(5) サイディングなど	①ひび割れなど	ボードにずれ、ひび割れ、欠損、ガタつきは見当たらないか。	劣化	65					
		②取付けビス	取付けビスに浮き等の異常は見当たらないか。	劣化	65					
	(6) ガラスブロック	①工法	古い工法で設置されていないか。	耐震性	66					
		②ずれ・せり出し	ガラスブロック壁に面外へのずれやせり出しは見当たらないか。	劣化	67					
		③欠損など	ガラスブロックの欠損、ひび割れや目地部の損傷は見当たらないか。	劣化	67					
	(7) コンクリートブロック	①仕様	コンクリートブロック壁は適切な仕様で設置されているか。	耐震性	68					
		②構造体との緊結	鉄筋によりコンクリートブロック相互が緊結され、かつ、周囲が構造体等に適切に緊結されているか。	耐震性	68					
		③欠損など	コンクリートブロック壁にはらみ、欠損、ひび割れ、目地部の損傷は見当たらないか。	劣化	69					
	モルタル(1)	①剥落など	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、浮きは見当たらないか。	劣化	71					
	ラス(2)	①剥落など	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、はらみは見当たらないか。	劣化	72					

点検項目				点検種類	参照頁※1	点検方法			点検結果	特記事項 (建物名・部屋名・部材の状態等)
						目視	打診・触診	図面		
V 内 壁（内装材）	（3） ボード上 の仕上げ	①はらみなど	ボードのはらみ、緩み、ずれ、漏水跡は見当たらないか。	劣化	72					
	（4） コンクリート ブロック	①仕様	コンクリートブロック壁（間仕切壁）は適切な仕様で設置されているか。	耐震性	73					
		②構造体との緊結	鉄筋によりコンクリートブロック相互が緊結され、かつ、周囲が構造体等に適切に緊結されているか。	耐震性	73					
		③欠損など	コンクリートブロックのはらみ、欠損、ひび割れ、目地部の損傷は見当たらないか。	劣化	73					
	（5） ステージ の壁	①仕上面の状況	ビスや釘の浮き、ボードのはらみやずれ、汚れは見当たらないか。	劣化	73					
		②構造体との緊結	下地材と構造体（鉄骨等）が緊結されているか。	耐震性	73					
VI 設 備 機 器	（1） 放送機 器・体 育器 具	①取付け部（緊結）	放送機器や体育器具は支持材に緊結されているか。	耐震性	74					
		②取付け金物	取付け金物の緩み、腐食、破損は見当たらないか。	劣化	74					
	（2） 空調機 ・空 調室 外	①取付け部（緊結）	空調室外機や給湯設備などは支持材に緊結されているか。	耐震性	75					
		①取付け部（変形など）	取付け部に変形、腐食、破損は見当たらないか。	劣化	75					
VII テ レ ビ な ど	（1） 天吊り ・エ ア コ レ	①取付け部（緊結）	天吊りのテレビ台及びエアコンが構造体に緊結されているか。	耐震性	76					
	（2） 黒板	①取付け部（緊結）	黒板が構造体（強固な下地等）に緊結されているか。	耐震性						
X ・ ジ ョ イ ン ト	（1） エキ ス パ ン シ ョ ン	①エキスパンション・ジョイントの間隔	エキスパンション・ジョイントの間隔は十分か。	耐震性	77					
		②エキスパンション・ジョイントのカバー材	カバー材が適切な追従性能を有するか。	耐震性	77					

※1 点検方法は、「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック（改訂版）（文部科学省H27. 3）を参照

遊具点検統括表(該当部に○をつける)

学校名			点検年月日		
受託者			点検実施者		
	遊具の種類	該当の有無	塗装の状況		総合結果記入欄 ※点検チェックシートから転記する。
①	バスケットゴール	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
②	サッカーゴール	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
③	鉄棒・雲梯・登り棒	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
④	ブランコ	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑤	滑り台	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑥	ジャングルジム	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑦	シーソー	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑧	砂場	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑨	ターザンロープ	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑩	木製複合遊具	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑪	鋼製複合遊具	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑫	プレイスカルプチュア (コンクリート遊具)	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑬	スプリング遊具 スウィング遊具	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置
⑭	その他遊具	有・無	I	問題なし	A: 健全(b・cなし)
			II	経過観察	B: 経過観察(bあり、cなし)
			III	再塗装が必要	C: 要修繕・要対応(cあり)
					D: 使用禁止措置

遊具名:バスケットゴール

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
本体・梁	ぐらつき、亀裂、破損、変形、腐食、傾き	目視 錆がある場合はハンマー打診	a・b・c	
接合部	【継ぎ手金具】緩み・破損・変形・腐食 【ボルト】緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、ハンマー打診	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b,cなし)
 b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
 c:要修繕

遊具名：サッカーゴール

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
本体・フレーム	ぐらつき、亀裂、破損、変形、腐食、傾き	目視 錆がある場合はハンマー打診	a・b・c	
ゴールネット	破れ・ほつれ・その他破損	目視、触診	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A: 健全(b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B: 経過観察(bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C: 要修繕・要対応(cあり)	
			D: 使用禁止措置	

※判定基準 a: 健全(b,cなし)
b: 経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c: 要修繕

遊具名:鉄棒・雲梯・登り棒

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
柱・本体	ぐらつき、破損、変形、腐食	目視、押す、ゆする	a・b・c	
根際部	腐食(両端又は腐食の最もひどい中間部と端部各1箇所)	基礎天端まで掘り、目視 錆がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷、緩み、はがれ (両端または腐食の最もひどい中間部と端部1箇所)	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
継ぎ手	ぐらつき、破損、変形、腐食 ボルトの緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、ゆする、ハンマー打診、レンチ等で締める	a・b・c	
握り棒	がたつき、腐食によるぐらつき、破損、変形	目視、触診、ゆする	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A: 健全(b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B: 経過観察(bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C: 要修繕・要対応(cあり)	
			D: 使用禁止措置	

※判定基準 a: 健全(b・cなし)
 b: 経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
 c: 要修繕

遊具名:ブランコ

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
柱・梁	ぐらつき、破損、変形、腐食(腐朽)	目視、押す、揺する、梁を回す	a・b・c	
柱の根際部(木製)	腐朽、腐朽防止部材と木部の間に隙間	基礎天端まで掘り、目視 腐朽がある場合はハンマー打診	a・b・c	
柱の根際部(鋼製)	腐食	基礎天端まで掘り、目視 錆がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷・ゆるみ・はがれ	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
接合部(継ぎ手)	破損、変形、腐食、ボルトの緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、ハンマー打診	a・b・c	
吊金具・ダルマ	破損、変形、腐食、異音、金具本体のズレ 磨耗(1/3～1/2、1/2以上)	目視、触診、使用する 【磨耗の判定基準】 c:1/3以上 1/2以上は使用禁止	a・b・c	
チェーン・ロープ	ねじれ、変形、破損、ほつれ、断線、磨耗(1/3～1/2、1/2以上)	目視、触診、ハンマー打診 レンチ等で締める 【磨耗の判定基準】 c:1/3以上 1/2以上は使用禁止	a・b・c	
座板・座面(タイヤ)	ヒビ、割れ、ゆがみ、破損、腐朽 取付金具の磨耗(1/3～1/2、1/2以上)、ボルト・袋ナットの緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、使用する 【磨耗の判定基準】 c:1/3以上 1/2以上は使用禁止 【クリアランスの基準】 座板下面から計測 (カッコ内はタイヤブランコ) a: 350mm～450mm (400mm～500mm) b: 330mm～350mm (350mm～400mm) c: 450mm(500mm)を超える c: 330mm未満(350mm未満)は使用禁止	a・b・c	
	座板下面から地面までのクリアランス		a・b・c	
安全柵	ぐらつき、破損、変形、腐食 【接合部・ボルト】 緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、ゆする	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部(安全柵内)	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝		a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
□グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
□ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
□その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b,cなし)
b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c:要修繕

遊具名: 滑り台

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
柱(階段・滑降部の 柱を含む)	柱本体のぐらつき、破損、変形、腐食 【接合部】緩み、破損、変形、腐食 【接合部ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、押す、ゆする、触診、ハン マー打診、レンチ等で締める	a・b・c	
根際部(階段・滑降 部の柱を含む)	腐食	基礎天端まで掘り、目視 錆がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷・ゆるみ・はがれ	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
階段部 (手すり・踏み板)	ぐらつき、破損、変形、腐食	目視、触診、ゆする	a・b・c	
踊り場の階段との接 合部	ぐらつき、破損、変形、腐食 ボルトの緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、ゆする、ハンマー打 診、レンチ等で締める	a・b・c	
踊り場の落下防止 柵・床材	ぐらつき、破損、変形、腐食 ボルトの緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、ゆする	a・b・c	
滑降部の滑り出し部 等 (接合部含む)	ぐらつき、破損、変形、腐食、磨耗、 亀裂 ボルトの緩み・破損・腐食・欠落 ローラーの破損、変形、動作不良	目視、触診、ゆする、ハンマー打 診、レンチ等で締める	a・b・c	
滑降面・側板	破損、変形、腐食、ボルトの緩み・破 損・腐食・欠落、溶接部の破損		a・b・c	
地表部(安全柵内)	異物、落書き、大きな凹凸、石や根 の露出、マットのめくれ・破損、樹木 の枝		a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
□グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
□ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
□その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b・cなし)
b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c:要修繕

遊具名:ジャングルジム

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
柱・梁(本体)	ぐらつき、破損、変形、腐食、 接合部の緩み	目視、押す、ゆする	a・b・c	
接合部	【継ぎ手金具】緩み・破損・変形・腐食 【ボルト】緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、ハンマー打診	a・b・c	
根際部	腐食	基礎天端まで掘り、目視 錆がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷、緩み、はがれ	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A: 健全 (b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B: 経過観察 (bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C: 要修繕・要対応 (cあり)	
			D: 使用禁止措置	

※判定基準 a: 健全 (b.cなし)
 b: 経過観察 (軽微な劣化程度 cなし。)
 c: 要修繕

遊具名:シーソー

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
本体	柱本体のぐらつき、破損、変形、腐食	目視、押す、使用する	a・b・c	
柱の根際部	腐食	基礎天端まで掘り、目視 腐食がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷、緩み、はがれ	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
着座部	破損、変形、腐朽、 取っ手(緩み、破損、欠落)	目視、触診、ゆする	a・b・c	
緩衝部の金具	破損、変形、異音	目視、触診、ゆする	a・b・c	
緩衝部のクッション材	破損、変形	目視、触診	a・b・c	
支点部	破損、変形、異音、動作不良	目視、触診、使用する、ハンマー打診	a・b・c	
	鎖(はずれ、破損、変形)	目視、触診	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b・cなし)
b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c:要修繕

遊具名:砂場

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
砂	異物・糞の混入	目視	a・b・c	
	砂量の減少(側壁天端から20cm以下)	メジャー等で計測	a・b・c	
	砂の固結	目視	a・b・c	
側壁・コネ台	浮き、亀裂、破損	目視、ハンマー打診	a・b・c	
犬猫防止柵	ぐらつき、破損、変形、腐食	目視、ゆする	a・b・c	
犬猫防止ネット	ネットの破損、取付金具の破損、変形、腐食、欠損	目視	a・b・c	
その他	落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b・cなし)
b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c:要修繕

遊具名:ターザンロープ

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
柱・梁(本体)	ぐらつき、破損、変形、腐食、 接合部の緩み	目視、押す、使用する	a・b・c	
根際部	腐食	基礎天端まで掘り、目視 錆がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷、緩み、はがれ	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
安全柵	ぐらつき、破損、変形、腐食、 接合部の緩み	目視、触診、ゆする	a・b・c	
出発台 (デッキ・階段等)	ぐらつき、破損、変形、腐食、 接合部の緩み	目視、触診、ゆする	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
ケーブル本体	たるみ、ほつれ、断線、腐食 【固定部】緩み、がたつき、破損、変形、腐食 【固定部ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、固定金具をゆする・ 回す、レンチ等で締める	a・b・c	
ケーブル緩衝部	破損、変形、異音、へたり	目視、触診、ロープに乗って確認	a・b・c	
滑車	破損、変形、異音、回転不良 ボルト等の緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、ロープに乗って動 かす	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
吊下げ部のロープ	ほつれ、断線、ねじれ、不必要な結 び目	目視、触診	a・b・c	
吊下げ部の座面	破損、変形、腐朽、欠落 クリアランス計測 地面からの座面:①(mm) 地面からケーブルまで:②(mm)	座面から計測 a: ①250mm～450mm かつ②1.75m以上 c: ①450mmを超える場合または ②1.2m以上1.75m未満 →要修繕 c: ①250mm未満の場合または ②1.2m未満→使用禁止	a・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A: 健全(b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B: 経過観察(bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C: 要修繕・要対応(cあり)	
			D: 使用禁止措置	

※判定基準 a: 健全(b・cなし)
b: 経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c: 要修繕

遊具名:木製複合遊具

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
柱・梁	ぐらつき、破損、変形、腐朽(腐食)、 割れ、ささくれ 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、押す、ゆする、梁を回す	a・b・c	
柱の根際部(木製)	腐朽、根巻き部材(鉄板、鋼板等)と木部 の間に隙間	基礎天端まで掘り、目視 腐朽がある場合はハンマー打診	a・b・c	
柱の根際部(鋼製)	防食テープの傷、ゆるみ、はがれ	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
階段・デッキ ・落下防止柵 ・パネル・屋根等	ぐらつき、破損、変形、腐朽、割れ、ささくれ、 磨耗、踏み板の浮き上がり 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、上から踏む、裏面 から目視・たたく、ゆする	a・b・c	
はしご・雲梯 ・リングトンネル ・登り棒・滑り棒等	ぐらつき、破損、変形、腐食(腐朽) 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、使用する、ゆする、 溶接部分の目視	a・b・c	
登はん板、ロープ、 ネットクライム チェーンネット 吊り橋等	磨耗(1/3～1/2、1/2以上)、破損、変形、 よじれ、断線・ほつれ 【歩行部・手すり】破損、変形、腐食(腐朽)、 手すりのぐらつき 【取付金具】破損、変形、腐食、欠落、磨耗 (1/3～1/2、1/2以上)	目視、触診、使用する、ゆする、引っ張る、 乗って揺らす 【磨耗の判定基準】 c:1/3～1/2 使用禁止:1/2以上	a・b・c	
滑り台 チューブトンネル	ぐらつき、破損、変形、腐食、割れ、磨耗、亀裂、 滑り降り面と地表面の間計測 ローラーの破損・変形・動作不良 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、使用する 溶接部分の目視(金属製)	a・b・c	
ブランコ・タイヤブランコ の吊金具	破損、変形、腐食、異音、金具本体のズレ 磨耗(1/3～1/2、1/2以上)、ボルトの緩み・破損・ 腐食・欠落	目視、触診、使用する 【磨耗の判定基準】 c:1/3以上 使用禁止:1/2以上 【クリアランスの基準】 座面下板から計測 (カック内はタイヤブランコ) a:35cm(40cm)以上 b:33～35cm(35～40cm) c:33cm未満(35cm未満) ＝使用禁止	a・b・c	
ブランコ・タイヤブランコ のチェーン・ロープ	ねじれ、変形、破損、ほつれ、断線 、磨耗(1/3～1/2、1/2以上)		a・b・c	
ブランコ・タイヤブランコ の着座部	ヒビ、割れ、ゆがみ、破損、腐朽、取付金具の 磨耗(1/3～1/2、1/2以上)、ボルトの緩み・破損・ 腐食・欠落		a・b・c	
	地面からのクリアランス(cm)		a・b・c	
ブランコ・タイヤブランコ の安全柵	ぐらつき、破損、変形、腐食 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視・触診・ゆする	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b,cなし)
 b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
 c:要修繕

遊具名:鋼製複合遊具

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
柱・梁	ぐらつき、破損、変形、腐食 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、押す、ゆする、梁を回す	a・b・c	
柱の根際部	腐食	基礎天端まで掘り、目視 腐朽がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷、ゆるみ、はがれ	傷等がある場合は基礎天端までテープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
階段・デッキ ・落下防止柵 ・パネル・屋根等	ぐらつき、破損、変形、腐朽、割れ、ささくれ、磨耗、踏み板の浮き上がり 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、上から踏む、裏面から目視・たたく、ゆする	a・b・c	
はしご・雲梯 ・リングトンネル ・登り棒・滑り棒等	ぐらつき、破損、変形、腐食(腐朽) 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、使用する、ゆする、 溶接部分の目視	a・b・c	
登はん板、ロープ、ネットクライム ・チェーンネット 吊り橋等	磨耗(1/3～1/2、1/2以上)、破損、変形、よじれ、断線・ほつれ 【歩行部・手すり】破損、変形、腐食(腐朽)、手すりのぐらつき 【取付金具】破損、変形、腐食、欠落、磨耗(1/3～1/2、1/2以上)	目視、触診、使用する、ゆする、引っ張る、乗って揺らす 【磨耗の判定基準】 c:1/3～1/2 使用禁止:1/2以上	a・b・c	
滑り台 チューブトンネル	ぐらつき、破損、変形、腐食、割れ、磨耗、亀裂、滑り降り面と地表面の間計測 ローラーの破損・変形・動作不良 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、使用する 溶接部分の目視(金属製)	a・b・c	
ブランコ・タイヤブランコの吊金具	破損、変形、腐食、異音、金具本体のズレ 磨耗(1/3～1/2、1/2以上)、ボルトの緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、使用する 【磨耗の判定基準】 c:1/3以上 使用禁止:1/2以上 【クリアランスの基準】 座面下板から計測 (カッコ内はタイヤブランコ) a:35cm(40cm)以上 b:33～35cm(35～40cm) c:33cm未満(35cm未満) =使用禁止	a・b・c	
ブランコ・タイヤブランコのチェーン・ロープ	ねじれ、変形、破損、ほつれ、断線、磨耗(1/3～1/2、1/2以上)		a・b・c	
ブランコ・タイヤブランコの着座部	ヒビ、割れ、ゆがみ、破損、腐朽、取付金具の磨耗(1/3～1/2、1/2以上)、ボルトの緩み・破損・腐食・欠落		a・b・c	
	地面からのクリアランス(cm)		a・b・c	
ブランコ・タイヤブランコの安全柵	ぐらつき、破損、変形、腐食 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視・触診・ゆする	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
□グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
□ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
□その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b・cなし)
 b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
 c:要修繕

遊具名:プレイスカルプチュア コンクリート遊具

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
本体・柱	ぐらつき、亀裂、破損、欠損、割れ	ゆする、目視、触診、使用する	a・b・c	
柱の根際部	腐食	基礎天端まで掘り、目視 腐朽がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷、ゆるみ、はがれ	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
取っ手・足がかり 等	ぐらつき、破損、変形、腐食、異音、溶接部分 の亀裂、ボルトの緩み・破損・腐食・欠落	目視、触診、ゆする、使用する、 溶接部分の目視	a・b・c	
可動部のチェーン	ねじれ、変形、破損 磨耗(1/3～1/2、1/2以上)	目視、触診、引っ張る、 乗って揺らす 【磨耗の判定基準】 c:1/3以上 使用禁止:1/2以上	a・b・c	
可動部のロープ	ねじれ、破損、変形、断線、ほつれ 磨耗(1/3～1/2、1/2以上)		a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
□グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
□ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
□その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b・cなし)
b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c:要修繕

遊具名:スプリング・スウィング遊具 点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
全体	基礎のぐらつき、ゆがみ、傾き	目視、ゆする	a・b・c	
本体着座部	破損、変形、磨耗、割れ	目視、触診	a・b・c	
取っ手・足掛け部	がたつき、破損、変形、腐食	目視、触診、ゆする	a・b・c	
可動部のスプリング部 スウィング部	がたつき、異音、腐食、亀裂	ゆする、本体着座部をひねる	a・b・c	
接合部 (台座・固定金具)	がたつき、破損、変形、腐食 ボルトの緩み・腐食・欠落	目視、触診、ハンマー打診、 レンチ等で締める	a・b・c	
根際部	腐食	基礎天端まで掘り、目視 錆がある場合はハンマー打診	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
<input type="checkbox"/> グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
<input type="checkbox"/> ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
<input type="checkbox"/> その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b・cなし)
b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c:要修繕

遊具名:その他遊具

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名 (わかる場合のみ)		設置年度 (わかる場合のみ)		点検 実施者
点検時の記録(該当項目に○をつける。該当項目がないときは点検結果を斜線で消し、その旨所見に記入すること。)				
点検部位	項目	点検方法	点検結果※	所見
柱・梁	ぐらつき、破損、変形、腐朽(腐食)割れ、ささくれ 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、押す、ゆする、梁を回す	a・b・c	
柱の根際部 (木製)	腐朽、根巻き部材(鉄板・鋼板等)と木部の間に隙間	基礎天端まで掘り、目視 腐朽がある場合はハンマー打診	a・b・c	
柱の根際部 (鋼製)	腐食	基礎天端まで掘り、目視 腐朽がある場合はハンマー打診	a・b・c	
	防食テープの傷、ゆるみ、はがれ	傷等がある場合は基礎天端まで テープをはがし確認	a・b・c	
基礎	角が露出、亀裂、破損	目視	a・b・c	
階段・デッキ ・落下防止柵 ・パネル・屋根等	ぐらつき、破損、変形、腐朽、割れ、ささくれ、磨耗、踏み板の浮き上がり 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、上から踏む、裏面から目視・たたく、ゆする	a・b・c	
はしご・雲梯 ・リングトンネル ・登り棒・滑り棒等	ぐらつき、破損、変形、腐食(腐朽) 【接合部・ボルト】緩み、破損、腐食、欠落	目視、触診、使用する、ゆする、 溶接部分の目視	a・b・c	
登はん板、ロープ、ネットクライム チェーンネット 吊り橋等	磨耗(1/3～1/2、1/2以上)、破損、変形、よじれ、断線・ほつれ 【歩行部・手すり】破損、変形、腐食(腐朽)、手すりのぐらつき 【取付金具】破損、変形、腐食、欠落、磨耗(1/3～1/2、1/2以上)	目視、触診、使用する、ゆする、引っ張る、乗って揺らす 【磨耗の判定基準】 c:1/3～1/2 使用禁止:1/2以上	a・b・c	
その他	異物、落書き	目視	a・b・c	
地表部・遊具周辺	大きな凹凸、石や根の露出、異物 マットのめくれ・破損、樹木の枝	目視	a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
□グリース・オイル等の注入			A:健全(b・cなし)	
□ボルト・ナットの増し締め			B:経過観察(bあり、cなし)	
□その他			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

※判定基準 a:健全(b,cなし)
b:経過観察(軽微な劣化程度 cなし。)
c:要修繕

遊具名：

点検チェックシート

学校名		点検年月日		受託者
製造者名		設置年度		点検実施者
点検時の記録				
点検部位	項目	点検方法	点検結果	所見
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
			a・b・c	
塗装の状況	塗装のはがれ・浮き	目視・触診	I	問題なし
			II	経過観察
			III	再塗装が必要
点検時に実施した措置		備考	総合結果記入欄	
			A:健全(b・cなし)	
			B:経過観察(bあり、cなし)	
			C:要修繕・要対応(cあり)	
			D:使用禁止措置	

調査項目	
1	敷地及び地盤
(1)	地盤
(2)	敷地
(3)から(5)	敷地内の通路
(6)から(7)	塀
(8)から(9)	擁壁
2	建築物の外部
(1)から(2)	基礎
(3)から(4)	土台(木造に限る。)
(5)から(18)	外壁
3	屋上及び屋根
(1)	屋上面
(2)から(5)	屋上周り(屋上面を除く。)
(6)から(7)	屋根
(8)から(9)	機器及び工作物(冷却塔設備、広告塔等)
4	建築物の内部
(1)から(5)	防火区画
(6)から(16)	壁の室内に面する部分
(17)から(22)	床
(23)から(25)	天井
(26)から(33)	防火設備
(34)から(35)	照明器具、懸垂物等
(36)から(37)	警報設備
(38)から(43)	居室の採光及び換気
(44)から(47)	石綿等を添加した建築材料
5	避難施設等
(1)	令第120条第2項に規定する通路
(2)から(3)	廊下
(4)から(5)	出入口
(6)	屋上広場
(7)から(10)	避難上有効なバルコニー
(11)から(23)	階段
(24)から(29)	排煙設備等
(30)から(40)	その他の設備等
6	その他
(1)から(4)	特殊な構造等
(5)	避雷設備
(6)から(9)	煙突
7	上記以外の調査項目

(注) 配置図及び各階平面図を添付し、指摘のあった箇所(特記すべき事項を含む)や撮影した写真の位置を明記すること。

部位	番号	調査項目	調査結果
			<input type="checkbox"/> 要是正 <input type="checkbox"/> その他
写真貼付			特記事項

部位	番号	調査項目	調査結果
			<input type="checkbox"/> 要是正 <input type="checkbox"/> その他
写真貼付			特記事項

- (注意)
- ① この書類は、調査の結果、「要是正」かつ「既存不適格」ではない項目について作成してください。また、「既存不適格」及び「指摘なし」の項目についても、特記すべき事項があれば、必要に応じて作成してください。「要是正」の項目がない場合は、この書類は省略しても構いません。
 - ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
 - ③ 「部位」欄の「番号」、「調査項目」は、それぞれ別記様式の番号、調査項目に対応したものを記入してください。
 - ④ 「調査結果」欄は、調査の結果、要是正の指摘があった場合は「要是正」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、それ以外の場合で特記すべき事項がある場合は「その他」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
 - ⑤ 写真は、当該部位の外観の状況が確認できるように撮影したものを添付してください。

(受託者→学校→受託者→発注者→教育環境整備推進室)

作業完了報告書

令和 年 月 日

学 校 長 様

(受託者)

所 在 地 _____

名 称 _____

代表者氏名 _____ 印

業務名 学校公共建築物等定期点検 (小 ・ 中 学校) _____

が完了しましたので、報告いたします。

上記の業務について、完了したことを確認しました。

令和 年 月 日

川崎市立 _____ 学校長 _____ 印